

公益社団法人日本薬理学会報告

本報告は平成 31 年度の学術評議員会・通常総会資料を基に作成しています。学会誌の刊行、決算及び収支予算については、会計（事業）年度で提示しています。

【目次】

- I. 学術評議員会及び通常総会報告
- II. 平成 30 年度事業報告
- III. 平成 30 年度決算報告
- IV. 平成 31 年度事業計画
- V. 平成 31 年度収支予算
- VI. 部会選出新常置委員一覧
- VII. 規則の変更
- VIII. 理事会等報告
- IX. 委員会等報告
- X. 新学術評議員一覧

I. 学術評議員会及び通常総会報告

日 時：平成 31 年 3 月 14 日（木）17 時 30 分～19 時 15 分

場 所：大阪国際会議場（大阪市北区）

議決権を有する構成員数：総会（140 名）、学術評議員会：1,217 名

議決権を有する出席者数：通常総会：出席者数 114 名（本人出席 94 名，議決権行使 18 名，委任状 2 名）

学術評議員会：出席者数 787 名（本人出席 321 名（うち役員 19 名），委任状 466 名）

議長及び議事録署名人：通常総会：議長：吉岡 充弘 署名人：赤池 昭紀，飯野 正光

学術評議員会：議長：金井 好克 署名人：赤池 昭紀，飯野 正光

付議事項

第 1 号議案 平成 30 年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき平成 30 年度事業報告及び会員の状況が報告された。続いて財務委員長より平成 30 年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた。

監事より，平成 30 年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された。

議長より，平成 30 年度事業報告及び決算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した。

第 2 号議案 平成 31 年度事業計画及び収支予算の件

平成 31 年度事業計画について理事長より，収支予算について財務委員長より，それぞれ説明された。

本会議に提示する事業計画及び収支予算は，平成 30 年 11 月 30 日に開催された理事会の承認を経て，内閣府に提出したものであること，薬理学エデュケーター認定制度は，収益事業等に区分される事業の新たな開始に該当するため，内閣府に事業の認可申請中であることが報告された。

平成 31 年度は，2026 年の日本薬理学会創立 100 周年に向けた記念事業を計画し，その企画と準備を開始する。事務局を外部委託し，管理・運営の効率化を図る。

議長より平成 31 年度事業計画及び収支予算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認した。

第 3 号議案 諸規則の件

総務委員長より，1) 平成 31 年度の薬理学エデュケーター認定制度実施にあたり，事業の位置付けを明確にするため第 7 章の第 44 条に「優れた薬理学教育者を育成・支援し，薬理学の知識の普及及び研究水準の向上への貢献を目的として，薬理学エデュケーター認定制度を設置する」の条文を挿入する定款施行細則変更案，2) 薬理学エデュケーター認定制度の詳細を定める「薬理学エデュケーター」認定制度規定制定案，3) 現職の理事であっても，次期役員任期が三選禁止に該当する者は，役員選考委員に就任することができることを明文化した役員選考委員会規定変更案，4) COI 申告書様式の開示例の変更案，が合わせて付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した。

第 4 号議案 名誉会員及び永年会員の件

理事会が推薦した名誉会員候補者 赤池 昭紀，倉智 嘉久，成宮 周，松本 欣三，以上 4 氏の平成 31 年度名誉会員への推戴，及び永年会員候補者 尾崎 昌宣，櫻田 忍，鈴木光太郎，富山 格，野口 昭文，福井 裕行，矢野 眞吾，山添 康，山田 静雄，山西 嘉晴，以上 10 氏の平成 31 年度永年会員への推戴の件について付議され，両会議は満場一致で承認，可決した。

第 5 号議案 第 94 回年会長の件

谷内副理事長より，1) 第 94 回年会の開催部会を北部会とすること，2) 理事会は北海道大学大学院医学研究院の吉岡 充弘教授を第 94 回年会長として選考したこと，が報告された。議長より，吉岡 充弘教授を第 94 回年会長に決定する件につき付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した。

第 6 号議案 新学術評議員の件

企画教育委員長より，新学術評議員候補者として 73 名を選定したことが審査経過とともに報告された。議長より，平成 31 年度学術評議員に選任する件について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した。

II. 平成 30 年度事業報告

1. 学術集会, 講演会等の開催 (定款第 4 条第 1 号)

(1) 第 91 回年会は, 平成 30 年 7 月 1 日~6 日に国立京都国際会館で第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) と同時開催された。詳細は「(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力」に記載。

- ・第 91 回 日本薬理学会年会 特別年会長: 成宮 周(京都大学・院・医)

(2) 地方部会

- 第 138 回日本薬理学会関東部会 部会長: 三澤 日出巳 (慶應義塾大学・薬)
平成 30 年 3 月 10 日 慶應義塾大学薬学部(東京都港区)
参加者約 400 名, 一般演題 (口演 56, ポスター 52)
- 第 133 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 酒井 規雄 (広島大学・院・医歯薬保健)
平成 30 年 6 月 1 日 広島県医師会館(広島県広島市)
参加者 143 名, 一般演題 (口演 68)
- 第 69 回日本薬理学会北部会 部会長: 松本 欣三 (富山大学・和漢医薬学研)
平成 30 年 9 月 21 日 富山国際会議場(富山県富山市)
参加者約 140 名, 一般演題 (口演 55)
- 第 139 回日本薬理学会関東部会 部会長: 榎山 俊彦 (東京慈恵会医科大学・医)
平成 30 年 10 月 20 日 東京慈恵会医科大学一号館(東京都港区)
参加者約 200 名, 一般演題 (口演 33)
- 第 71 回日本薬理学会西南部会 部会長: 笹栗 俊之 (九州大学・院・医)
平成 30 年 11 月 17 日 九州大学医学部百年講堂(福岡県福岡市)
参加者約 180 名, 一般演題 (口演 43, ポスター 25)
- 第 134 回日本薬理学会近畿部会 部会長: 徳山 尚吾 (神戸学院大学・薬)
平成 30 年 11 月 23 日 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス (兵庫県神戸市)
参加者 250 名, 一般演題 (口演 67), ランチョンセミナー 1

(3) 公開講座の開催

- ・公開講座 (WCP2018 開催時) 平成 30 年 7 月 1 日 国立京都国際会館 Room B-2, 参加者 135 名
『くすりはどのように創られるか』 演者: 池谷 裕二 (東京大学・院・薬)
澤崎 達也 (愛媛大学)
樽井 直樹 (株SEEDSUPPLY)
- ・公開講座(北部会) 平成 30 年 9 月 22 日 富山国際会議場(富山県富山市), 参加者約 30 名
『高齢者 (フレイル) と漢方薬』 責任者: 松本 欣三 (富山大学・和漢医薬学研)
- ・公開講座(西南部会) 平成 30 年 11 月 18 日 福岡朝日ビル (福岡県福岡市)
『薬物治療の疑問に答える 4 つの話』 責任者: 笹栗 俊之 (九州大学・院・医), 参加者約 30 名
- ・公開講座(近畿部会) 平成 30 年 11 月 23 日 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス(兵庫県神戸市), 参加者: 44 名
『インターネット嗜癖による問題ーゲーム依存・SNS 依存についてー』 責任者: 徳山 尚吾 (神戸学院大学・薬)

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

- ・次世代薬理学セミナー 2018 平成 30 年 3 月 10 日 慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂(東京都港区)
『薬理学の次世代を築く新たなアプローチ』 代表: 永井 拓 (名古屋大学・院医/附属病院薬剤部)

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

- ・看護薬理学カンファレンス in 東京 (第 139 回日本薬理学会関東部会開催時)
平成 30 年 10 月 20 日 東京慈恵会医科大学一号館(東京都港区)
磯濱洋一郎 (東京理科大学・薬)
上園 保仁 (大会長/国立がん研究センター研究所)
- ・看護薬理学カンファレンス in 福岡 (第 71 回日本薬理学会西南部会開催時)
平成 30 年 11 月 17 日 九州大学医学部百年講堂(福岡県福岡市)
池谷 裕二 (大会長/東京大学・院・薬)
首藤 剛 (熊本大学・院・生命科学)

(6) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本生理学会との共催シンポジウム 平成 30 年 3 月 29 日 (第 95 回日本生理学会大会時), カホートホール高松 (香川県高松市)
『センシングチャネル研究へのセンシブルなアプローチ：生理学から薬理学へ』
オーガナイザー：檜山 武史 (基礎生物学研)
中川 貴之 (京都大学病院)
- ・日本毒性学会との共催シンポジウム 平成 30 年 7 月 20 日 (第 45 回日本毒性学会学術年会時), 大阪国際会議場
『毒性発現と性差』
オーガナイザー：黒川 洵子 (静岡県立大学・薬)
佐藤 洋美 (千葉大学・院・薬)
- ・日本看護研究学会との合同シンポジウム 平成 30 年 8 月 18 日 (第 44 回日本看護研究学会学術集会時), 熊本県立劇場
『免疫学の視点から薬を考える—患者さんに自信を持って助言できる看護師となるために—』
座 長：柳田 俊彦 (宮崎大学・医)
演 者：首藤 剛 (熊本大学・院・生命科学)

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

1) 第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) の開催

『Pharmacology for the Future (Science, Drug Development and Therapeutics)』

2018 年 7 月 1 日 (日)～6 日 (金), 国立京都国際会館 (京都市左京区)

WCP2018 大会長：成宮 周 (京都大学・院・医)

WCP2018 副会長, 第 39 回日本臨床薬理学会学術集会会長：川合 眞一 (東邦大学・医)

参加者数：4,554 名

参加国数：81 ヶ国

国別参加者数：Japan 2,520, China 374, Taiwan 218, United States 162, Korea 136, Thailand 101, Australia 84, United Kingdom 81, Indonesia 64, India 49, South Africa 37, Spain 33, Nigeria 29, Hong Kong 28, Mexico 28, Russia 28, Italy 27, Germany 26, Canada 25, Finland 25, France 18, Sweden 18, Turkey 18, Denmark 17, Hungary 16, Netherlands 16, Croatia 13, Switzerland 13, Brazil 12, Malaysia 11, Portugal 11, Singapore 11

参加者 10 名以下

Chile, New Zealand, Poland, Cuba, Vietnam, Latvia, Argentina, Belgium, Slovakia, Austria, Egypt, Iran, Macao, Norway, Iraq, Ireland, Kenya, Saudi Arabia, Bosnia and Herzegovina, Czech Republic, Israel, Pakistan, Romania, Sri Lanka, Bulgaria, Colombia, Gabon, Ghana, Greece, Jordan, Lebanon, Serbia, Tunisia, Ukraine, Zimbabwe, Bahrain, Bangladesh, Belarus, Benin, Estonia, Kazakhstan, Kuwait, Lithuania, Myanmar, Philippines, Senegal, Slovenia, United Arab Emirates, Uruguay

演題数：一般演題 2,362 題 (日本：910 題, 国外：1,452 題),

特別講演 7 題, 分野別カテゴリーエッジ・レクチャー 33 題, 85 のシンポジウム

- 2) 第 50 回インド薬理学会年会 (2018 年 2 月 15～17 日, ムンバイ市) に飯野国際対応委員長が参加し招待講演を行った。
- 3) IUPHAR Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) の会合 (2018 年 5 月 18 日～20 日, エディンバラ) に金井 好克教授 (大阪大学) が参加した。
- 4) IUPHAR Education Project (発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム) に 3 年間の期限付き財政的援助の第 3 回目として平成 30 年度分 1 万ドルを送金した。

2. 学会誌等刊行物の刊行 (定款第 4 条第 2 号)

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号 136 巻 1～4 号, 137 巻 1～4 号, 138 巻 1～4 号

	掲載頁数	(篇数)
① Review	25 頁	(3)
② Full Paper	846 頁	(109)
③ Short Communication	96 頁	(23)
合計	967 頁	(135)

(2) 日本薬理学雑誌 (くすりとかからだ/ファーマコロジカ) の刊行

発行巻号 (部数) 151 巻 1 号 (3,850 部), 151 巻 2 号 (3,800 部), 151 巻 3 号 (3,850 部),
151 巻 4 号 (3,000 部), 151 巻 5 号 (3,300 部), 151 巻 6 号 (3,400 部),
152 巻 1 号 (3,450 部), 152 巻 2 号 (3,500 部), 152 巻 3 号 (3,550 部),
152 巻 4 号 (3,600 部), 152 巻 5 号 (4,100 部), 152 巻 6 号 (3,850 部)

	掲載頁数	(篇数)
① 特集序文	16 頁	(16)
② 特集および総説	349 頁	(59)
③ 実験技術	11 頁	(2)
④ 創薬シリーズ	49 頁	(8)
⑤ 新薬紹介総説	100 頁	(10)
⑥ キーワード解説	3 頁	(1)
⑦ 最近の話題	8 頁	(7)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	5 頁	(5)
⑨ 学会便り/研究室訪問	8 頁	(8)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ 広告	91 頁	
⑫ 綴込み, 目次等上記以外の頁	176 頁	
合計	840 頁	(128)

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 4 条第 3 号)

(1) 第 11 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

萩原 正敏 (京都大学大学院医学研究科・教授)

第 12 回日本薬理学会江橋節郎賞決定

石井 優 (大阪大学大学院医学系研究科・教授)

(2) 第 33 回日本薬理学会学術奨励賞授賞 (所属等の標記は授賞時)

泉 安彦 (京都大学大学院薬学研究科薬品作用解析学分野・助教/神戸薬科大学薬学部薬理学研究室・講師)
『ドパミン神経軸索伸長の新たな評価系の確立とその制御因子に関する研究』

岡田 宗善 (北里大学獣医学部獣医薬理学研究室・准教授)

『心疾患における細胞外マトリックス分解断片 canstatin の役割解明』

清水 孝洋 (高知大学教育研究部医療学系基礎医学部門薬理学講座・准教授)

『ストレス反応の脳内制御機構に関する薬理学的研究』

第 34 回日本薬理学会学術奨励賞決定 (裏表紙)

(3) 第 23 回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定 (掲載順)

Glutamine protects against cisplatin-induced nephrotoxicity by decreasing cisplatin accumulation
Hyun-Jung Kim, Dong Jun Park, Jin Hyun Kim, Eun Young Jeong, Myeong Hee Jung, Tae-Ho Kim,
Jung Ill Yang, Gyeong-Won Lee, Hye Jin Chung, Se-Ho Chang
Vol. 127, No. 1 pp. 117-126 (2015)

Involvement of TRPM2 in a wide range of inflammatory and neuropathic pain mouse models
Kanako So, Kayo Haraguchi, Kayoko Asakura, Koichi Isami, Shinya Sakimoto, Hisashi Shirakawa,
Yasuo Mori, Takayuki Nakagawa, Shuji Kaneko
Vol. 127, No. 3 pp. 237-243 (2015)

(4) 2018 年度 JPS 優秀査読者賞

- ・ Tatsuhiko Furukawa (Kagoshima University)
- ・ Kinzo Matsumoto (Institute of Natural Medicine, University of Toyama)
- ・ Daisuke Nakano (Graduate School of Medicine, Kagawa University)
- ・ Takeya Sato (Tohoku University School of Medicine)

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

- (1) 本会で使用されているカテゴリ表に新たな項目を追加し、再編した。
- (2) 全国医学部薬理学教室の講義・実習の実態調査アンケートを行った。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

- (1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(6), (7)を参照
- (2) 学術集会の協賛・後援（平成30年総会から平成31年総会前日まで）

後 援

1) 第13回日本分子イメージング学会総会・学術集会	平成30年5月31日～6月1日
2) 日本ケミカルバイオロジー学会 第13回年会	6月11日～13日
3) 医療薬学フォーラム第26回クリニカルファーマシーシンポジウム	6月23日, 24日
4) 国際アドレナリン受容体シンポジウム2018 (Adrenoceptor Symposium 2018)	6月28日～30日
5) 第27回神経行動薬理若手研究者の集い	6月30日
6) Systems Pharmacology and AI Based on Real World 'Big' Data	7月6日
7) 第13回トランスポーター研究会年会	7月21日, 22日
8) 第20回応用薬理シンポジウム2018	8月3日, 4日
9) 第23回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	8月3日, 4日
10) 第65回脳の医学・生物学研究会	8月11日
11) 生体機能と創薬シンポジウム	8月23日, 24日
12) 第2回日本精神薬学会総会・学術集会	9月15日, 16日
13) 創薬薬理フォーラム第26回シンポジウム	10月11日, 12日
14) 第3回黒潮カンファレンス	10月13日, 14日
15) 神戸医療産業都市20周年記念 神戸国際創薬シンポジウム	10月19日
16) 第34回日本ストレス学会学術総会	10月27日, 28日
17) 第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会合同年会	11月14日～16日
18) 第49回日本消化吸収学会総会	11月17日
19) 第3回トランスポーター研究会関東部会	11月17日
20) 公開シンポジウム「ビッグデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」	11月20日
21) 日本動物実験代替法学会第31回大会動物実験代替法学の体系化と人材育成	11月23日～25日
22) 第28回日本循環薬理学会学術集会	12月7日
23) 第66回脳の医学・生物学研究会	平成31年1月26日
24) 第10回日本安全性薬理研究会学術年会	2月28日～3月2日
25) 第28回神経行動薬理若手研究者の集い	3月13日
26) 倉智嘉久教授退職記念国際シンポジウム『Logic of life : Ion channel structure, function and physiology』	3月13日

協 賛

1) 第25回HAB研究機構学術年会	平成30年5月24日～26日
2) 第22回活性アミンに関するワークショップ	7月7日, 8日
3) 第27回日本バイオイメーキング学会学術集会	9月2日～4日
4) CBI学会2018年大会	10月9日～11日

6. 会議等の開催状況（平成30年総会から平成31年総会前まで）

総 会	平成30年度通常総会	平成30年3月10日	(東京)
学術評議員会	平成30年度	平成30年3月10日	(東京)
理 事 会	平成30年度第3回	平成30年3月10日	(東京)
	第4回	4月28日	(東京)
	第5回	7月1日	(京都)
	第6回	11月30日	(東京)
	平成31年度第1回	平成31年2月	(書面決議)
	第2回	3月13日	(大阪)
総務委員会	平成30年度 第1回	平成30年6月9日	(東京)
	第2回	11月19日	(東京)
財務委員会	平成30年度 第1回	平成30年11月6日	(東京)
	予算案検討ワーキング	11月6日	(東京)
	WCP2018 会計監査	10月16日, 17日	(東京)
	会 計 監 査	平成31年1月12日	(東京)
	監 事 監 査	25日, 29日 2月14日	(東京)
編集委員会	平成30年度 第1回	平成30年3月10日	(東京)
	第2回	7月4日	(京都)
	国際編集者会議	7月3日	(京都)
研究推進委員会	平成30年度 第1回	10月6日	(東京)
広報委員会	平成30年度 第1回	平成30年3月10日	(東京)
	第2回	6月18日	(東京)
企画教育委員会	平成30年度 第2回	平成30年6月25日	(東京)
	平成31年度 第1回	平成31年1月30日	(東京)
次世代の会	平成30年度 第1回	平成30年3月10日	(東京)
賞等選考委員会	平成30年度 第1回	平成30年10月2日	(東京)
年会学術企画委員会	平成30年度 第1回	平成30年8月31日	(東京)
江橋賞選考委員会	平成30年度 第1回	平成30年10月26日	(東京)
国際対応委員会	平成30年度 第1回	平成30年3月10日	(東京)
利益相反(COI)委員会	平成30年度 第1回	平成30年6月9日	(東京)
	第2回	11月19日	(東京)

7. 会員状況（平成30年12月31日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正 会 員		総 数
			学術評議員	一般会員	
140	120	90	1,257	2,831	4,298
+1	+2	+5	+1	-31	-23

新入会者数：390名，退会者数：413名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

Ⅲ. 平成 30 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

平成 31 年 2 月 14 日

公益社団法人 日本薬理学会

理事長 吉岡 充弘 殿

中村公認会計士事務所

公認会計士 中村 友理香 ㊞

<財務諸表監査>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成 30 年 1 月 1 日から平成 30 年 12 月 31 日までの平成 30 年度の貸借対照表及び損益計算書(公益認定等ガイドライン I-5 (1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。)並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表(以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。)について監査を行った。

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益(正味財産増減)の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<財産目録に対する意見>

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の平成30年12月31日現在の平成30年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

監査報告書

公益社団法人日本薬理学会

理事長 吉岡 充弘 殿

平成31年2月14日

公益社団法人日本薬理学会

監事 伊藤 芳久 ㊞

監事 服部 裕一 ㊞

私たちは、平成30年1月1日から平成30年12月31日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて、財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は、真実であると認める。
- (3) 理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める。

貸借対照表

平成30年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	807,239	3,409,503	△ 2,602,264
預 貯 金	68,338,270	60,600,541	7,737,729
未収入金	17,149,307	11,850,786	5,298,521
前 払 金	6,281,820	4,060,030	2,221,790
貯 蔵 品	3,523	2,944	579
流動資産合計	92,580,159	79,923,804	12,656,355
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	1,752,338	2,423,696	△ 671,358
振興基金			
学術講演基金	18,937,457	21,308,605	△ 2,371,148
刊行基金	15,782,824	15,781,772	1,052
褒賞基金	12,977,637	15,008,418	△ 2,030,781
WCP2018開催資産	0	1,580,000	△ 1,580,000
国際情報発信強化資産	1,743,444	871,902	871,542
特定資産合計	101,193,700	106,974,393	△ 5,780,693
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	6,124,680	2,789,250	3,335,430
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	7,400	20,029,651	△ 20,022,251
長期貸付金	0	2,088,220	△ 2,088,220
その他固定資産合計	7,704,082	26,479,123	△ 18,775,041
固定資産合計	108,897,782	133,453,516	△ 24,555,734
資 産 合 計	201,477,941	213,377,320	△ 11,899,379
II 負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	9,304,000	960,500	8,343,500
未 払 金	11,105,589	23,882,759	△ 12,777,170
預 り 金	467,702	3,875,572	△ 3,407,870
流動負債合計	20,877,291	28,718,831	△ 7,841,540
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	20,877,291	28,718,831	△ 7,841,540
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金	1,743,444	871,902	871,542
受取寄付金	0	1,580,000	△ 1,580,000
指定正味財産合計	1,743,444	2,451,902	△ 708,458
(うち特定資産への充当額)	(1,743,444)	(2,451,902)	(△708,458)
2. 一般正味財産	178,857,206	182,206,587	△ 3,349,381
(うち特定資産への充当額)	(99,450,256)	(104,522,491)	(△5,072,235)
正味財産合計	180,600,650	184,658,489	△ 4,057,839
負債及び正味財産合計	201,477,941	213,377,320	△ 11,899,379

IV. 平成 31 年度事業計画

第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) が、京都において成功裏に終了しました。日本薬理学会は、WCP2018 組織委員会と協力してこの国際会議を成功させるとともに、薬理学会の更なる活性化を図ることをこれまでの重点目標としてきました。今後はこの流れを継続・発展させるため、国際連携強化を一つの目標として国際対応委員会を軸に理事会、各委員会が一致協力して、本学会のプレゼンスを高めるための国際化の推進に向けた活動を進めます。また、2019 年以降の年会の活性化に向けた活動も年会学術企画委員会を中心に進めます。さらに、今後の中期的目標として、日本薬理学会創立 100 周年を迎える 2026 年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります。

学会機関誌については、編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に努めます。特に、国際情報発信強化助成金を用いた Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の国際誌レベルアップを一層進めてまいります。

次世代の会の活動の充実、薬理学エデュケーター制度の導入、看護薬理学への対応などの検討を行い、若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでいきます。

財政状況につきましては、会費収入の漸減傾向が続いていますが、経費削減努力を継続し、その一環として会員管理システムのリニューアルを行い、連動した諸種システムなどを一本化しました。今後も会員の方の手続き利便性の向上を目指します。

事務局体制につきましては、2020 年度以降も 5 年ごとの見直しを行いながら継続することを決定し、新規職員の採用を行いました。将来も安定した学会運営体制の構築を目指します。

本会の更なる発展を目指すため、会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします。

理事長 吉岡 充弘

1 薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業 (公益目的事業 1)

(1) 年会の開催

- ・第 92 回 日本薬理学会年会
年会長：金井 好克 (大阪大学大学院医学系研究科)
2019 年 3 月 14 日～16 日 大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する。

- ・第 135 回 日本薬理学会近畿部会
部会長：原 英彰 (岐阜薬科大学・薬)
2019 年 6 月 21 日 じゅうろくプラザ (岐阜市文化産業交流プラザ)
- ・第 140 回 日本薬理学会関東部会
部会長：亀井 淳三 (星薬科大学・薬)
2019 年 7 月 6 日 星薬科大学新星館および百年記念館
- ・第 70 回 日本薬理学会北部会
部会長：南 雅文 (北海道大学・院薬)
2019 年 9 月 20 日 北海道大学薬学部
- ・第 141 回 日本薬理学会関東部会
部会長：杉山 篤 (東邦大学・医)
2019 年 10 月 12 日 大田区産業プラザ Pi0
- ・第 72 回 日本薬理学会西南部会
部会長：山本 秀幸 (琉球大学・院医)
2019 年 11 月 16 日 沖縄県市町村自治会館
- ・第 136 回 日本薬理学会近畿部会
部会長：荻田喜代一 (摂南大学・薬)
2019 年 11 月 23 日 摂南大学枚方キャンパス

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会、地方部会と連動して 3 回の市民公開講座を開催する予定である。

- ・公開講座 (第 92 回年会)
講演者：安西 尚彦 (千葉大学・院医), 西山 成 (香川大学・医)
2019 年 3 月 16 日 大阪国際会議場 12 階特別会議室
テーマ：生活習慣病とくすり
- ・公開講座 (第 141 回関東部会)
世話人：杉山 篤 (東邦大学・医)
- ・公開講座 (第 72 回西南部会)
世話人：山本 秀幸 (琉球大学・院医)

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため、意欲と能力のある若手を育成し、学会活動への積極的な参画を促すため、若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する。

- ・次世代薬理学セミナー2019 第92回年会会期中、大阪国際会議場
- ・次世代薬理学セミナー（第140回関東部会）2019年7月6日 部会長：亀井 淳三（星薬科大学）
- ・次世代薬理学セミナー（第72回西南部会）2019年11月16日 部会長 山本 秀幸（琉球大学・院医）

(5) 薬理学カンファレンス2019を開催する。第92回年会会期中他2回開催予定。

2 薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし、学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する。

- ・2019年刊行予定：139巻1～4号、140巻1～4号、141巻1～4号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

- ・2019年刊行予定：153巻1～6号、154巻1～6号 計12冊

(3) 「Outstanding Drugs Developed in Japan」のパンフレット英語版は、WCP2018（2018年7月1日～6日、京都で開催）の参加者に配布した。2019年は日本語版を作成し、ホームページに掲載する予定。

3 優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために、各賞を設置し、研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため、江橋節郎賞を創設し、独創的、飛躍的な業績をあげ、薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与しているが、薬理学の振興という本賞創設の趣旨に則り、第10回より、これからますます発展が期待される若手研究者も受賞対象として推薦を受け付けている。

- ・第12回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は、第92回年会会期中の平成31年3月15日に行われる。

石井 優（大阪大学大学院医学系研究科）

『生命動態イメージング技術の開発と免疫・炎症ダイナミクスの解明』

- ・第13回江橋節郎賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する。

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する。

- ・第34回学術奨励賞受賞者2名の受賞講演は、第92回年会会期中の平成31年3月16日に行われる。

村松里衣子（国立精神・神経医療研究センター 神経研究所・部長）

『脳神経回路の傷害と修復を司る生体システムの解明』

山下 直也（順天堂大学医学部 薬理学講座・助教）

『軸索輸送を介した神経細胞内情報伝搬・その破綻による神経変性疾患発症の分子機構』

- ・第35回学術奨励賞は5月末日までに募集を公告し、推薦の締切は8月末日、賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する。

(3) JPS 優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し、その著者にJPS優秀論文賞を授与する。

- ・第23回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式は第92回年会会期中の平成31年3月16日に行われる。

- ・第24回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する。

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し、学問的情報発信の場としての役割を高めるために第92回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して、10～20件の年会優秀発表賞を授与する。

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ、掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で5名以内にJPS優秀査読者賞を授与する。

4 薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした、内外の関連学術団体との連携及び協力事業 (公益目的事業4)

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は、日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する。

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために、定例会議に出席する。

(3) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・日本薬理学会・日本毒性学会共催シンポジウム 平成31年3月14日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
シンポジウムタイトル:『神経毒性研究の新展開:神経障害の発生メカニズムと評価法の先端研究』
- ・日本薬理学会・日本リウマチ学会共催シンポジウム 平成31年3月15日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
シンポジウムタイトル:『免疫薬理学—免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割』
- ・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム 平成31年3月16日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
シンポジウムタイトル:『基礎・臨床研究の連携のフロンティア』
- ・日本薬理学会・日本組織細胞化学会共催シンポジウム 平成31年3月14日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
シンポジウムタイトル:『薬理学研究に使える形態学的手法の基礎』
- ・看護薬理学カンファレンス 平成31年3月16日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場

(4) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する。

- ・JPS-ASPET Lecture 平成31年3月14日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
Title: “Combining Pharmacology and Genetics to Study and Treat Human Diseases”
- ・日韓合同セッション 平成31年3月16日(第92回年会会期中)、大阪国際会議場
- ・IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会 平成31年3月(第92回年会会期中)、大阪国際会議場

5 薬理学エデュケーター認定制度の創設について

優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として、薬理学エデュケーター認定制度を開始する予定である。内閣府に変更認定申請を行い、認可後はその他事業の位置づけで事業を実施する。

6 その他

1 会 員

- ・平成30年度末の会員数は平成29年度末の会員数4,321名から、若干の減少にとどまった。第92回年会での発表のために、入会する会員が増えるもののシニアの退職に伴う退会は例年どおりである。
- ・新会員管理システムに学術集会参加登録機能が搭載され、第133回近畿部会及び第92回年会から使用を開始した。会員登録情報との連動により、利便性が向上した反面、課題も見つかっているため、関係部署で協議しながら、システムの改善に努めていく。

2 業務執行体制の整備と強化

- ・代表理事1名、業務執行理事3名による執行体制で常務理事会を構成し、様々な課題に取り組む。

3 社会に向けて

- ・公開講座を開催し、科学的で正確な薬理学的知識に基づいて、薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する。
- ・倫理委員会規定を制定し、科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる。

4 事務局体制について

- ・財政状況を勘案し、事務局の在り方を検討する。

V. 平成31年度収支予算

平成31年度収支予算
平成31年1月1日から平成31年12月31日まで

(単位:円)

	31年度予算額	30年度予算額	増 減	備 考
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	(40,000)	(40,000)	(0)	
基金運用益	40,000	40,000	0	
② 受取会費	(45,491,500)	(48,890,000)	(△ 3,398,500)	
1 一般会員会費	18,491,500	20,000,000	△ 1,508,500	
2 学術評議員会費	18,000,000	18,870,000	△ 870,000	
3 賛助会員会費	9,000,000	10,020,000	△ 1,020,000	
③ 事業収益	(79,800,000)	(185,660,400)	(△ 105,860,400)	
1 学術集会費収益	(57,530,000)	(163,640,400)	(△ 106,110,400)	
参加登録費	21,350,000	109,397,000	△ 88,047,000	
器械展示料・予稿集広告料	18,940,000	21,066,400	△ 2,126,400	
懇親会費	5,240,000	5,817,000	△ 577,000	
ランチョンセミナー	12,000,000	27,360,000	△ 15,360,000	
2 購読料	(720,000)	(820,000)	(△ 100,000)	
3 論文掲載料	(16,150,000)	(15,200,000)	(950,000)	
4 論文別刷料	(1,300,000)	(1,300,000)	(0)	
5 広告掲載料	(4,100,000)	(4,700,000)	(△ 600,000)	
④ 受取補助金等	(8,950,000)	(8,950,000)	(0)	
1 学術集会補助金	950,000	950,000	0	
2 指定正味財産からの振替額	8,000,000	8,000,000	0	
⑤ 受取寄付金	(15,150,000)	(21,115,510)	(△ 5,965,510)	
学術集会賛助金	15,150,000	21,115,510	△ 5,965,510	
⑥ 雑収益	(1,502,000)	(30,000)	(1,472,000)	
受取利息等	1,502,000	30,000	1,472,000	
経常収益計	150,933,500	264,685,910	△ 113,752,410	
(2) 経常費用				
① 事業費	(140,299,677)	(251,530,561)	(△ 111,230,884)	
給与手当	6,490,874	5,271,000	1,219,874	
法定福利費	1,015,000	868,000	147,000	
事務所借料	1,435,643	1,400,051	35,592	
会場費	35,160,600	62,209,600	△ 27,049,000	
旅費・通信交通費	4,286,600	43,209,179	△ 38,922,579	
印刷費	11,080,900	10,989,000	91,900	
会議費	2,788,400	22,114,000	△ 19,325,600	
謝金・その他	13,185,500	11,228,492	1,957,008	
懇親会費	5,280,000	7,650,000	△ 2,370,000	
編集刊行費	31,956,000	31,956,000	0	
国際情報発信強化費	8,000,000	8,000,000	0	
学術事業協力費	500,000	9,785,381	△ 9,285,381	
副 賞	1,000,000	1,000,000	0	
消耗品費	700,000	700,000	0	
業務委託費	15,200,000	29,992,200	△ 14,792,200	
租税公課	1,300,000	4,380,058	△ 3,080,058	
減価償却費	920,160	777,600	142,560	

(単位:円)

	31年度予算額	30年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	(19,734,555)	(17,613,373)	(2,121,182)	
給料手当	2,484,126	2,260,000	224,126	
法定福利費	385,000	372,000	13,000	
事務所借料	617,221	600,973	16,248	
中退共掛金	60,000	0	60,000	
臨時雇賃金	500,000	500,000	0	
旅費・通信交通費	3,500,000	4,000,000	△ 500,000	
印刷費	300,000	500,000	△ 200,000	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	191,808	192,000	△ 192	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	1,250,000	1,000,000	250,000	
慶弔費	400,000	400,000	0	
業務委託費	7,000,000	4,850,000	2,150,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	626,400	518,400	108,000	
選挙費	0	500,000	△ 500,000	
雑 費	700,000	200,000	500,000	
経常費用計	160,034,232	269,143,934	△ 109,109,702	
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 9,100,732	△ 4,458,024	△ 4,642,708	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 9,100,732	△ 4,458,024	△ 4,642,708	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,100,732	△ 4,458,024	△ 4,642,708	
一般正味財産期首残高	156,351,843	160,809,867	△ 4,458,024	
一般正味財産期末残高	147,251,111	156,351,843	△ 9,100,732	
II 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金等				
受取補助金等	8,300,000	9,600,000	△ 1,300,000	
②一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 8,000,000	△ 8,000,000	0	
当期指定正味財産増減額	300,000	1,600,000	△ 1,300,000	
指定正味財産期首残高	3,315,595	1,715,595	1,600,000	
指定正味財産期末残高	3,615,595	3,315,595	300,000	
III 正味財産期末残高	150,866,706	159,667,438	△ 8,800,732	

VI. 部会選出新常置委員会委員一覽

2020, 2021 年度
部会選出新常置委員一覽

(委員は五十音順, 次点者は得票順)

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
石井 邦明	赤羽 悟美	上原 孝	岩本 隆宏
岡村 信行	天野 託	大野 行弘	甲斐 広文
小原祐太郎	安西 尚彦	大矢 進	武田 泰生
谷村 明彦	池谷 裕二	金子 周司	津田 誠
守屋 孝洋	石毛久美子	高井 真司	西 昭徳
若森 実	上園 保仁	土屋浩一郎	柳田 俊彦
	諫田 泰成	冨田 修平	
	木内 祐二	西山 成	
	黒川 洵子	橋本 均	
	佐藤 洋美	山田 清文	
	成田 年	山村 寿男	
	三澤日出巳	吉栖 正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
安東 嗣修	辻 稔	吾郷由希夫	岩崎 克典
佐伯万騎男	小林 真之	中川 貴之	香月 博志
吉岡 充弘	石川 智久	金田 勝幸	筒井 正人
新田 淳美	小泉 修一	金井 好克	和田孝一郎
色摩 弥生	田中 光	田熊 一徹	齊藤 源頭
久米 利明	杉山 篤	川畑 篤史	黒瀬 等
	堀 正敏	稲垣 直樹	
	野部 浩司	白川 久志	

Ⅶ. 規則の制定・変更

【制定】

日本薬理学会「薬理学エデュケーター」認定制度規定

第1章 総 則

第1条（目的・名称）

- 1 公益社団法人日本薬理学会（以下「本会」という）は、定款施行細則第44条に基づき、優れた薬理学教育者を育成・支援するためのエデュケーター認定制度を制定する。本制度は、指導的立場にある薬理学教育者及び薬理学研究者を社会に送り出し、薬理学の知識の普及及び研究水準の向上への貢献を目的とする。
- 2 前項のエデュケーター認定制度により認定される名称を、「薬理学エデュケーター」とする。

第2条（運用機関）

制度の維持と運用は、本会の企画教育委員会（以下「委員会」という）が行う。

第2章 薬理学エデュケーター

第3条（薬理学エデュケーターの認定）

本会は、第4条に定める要件を備え、委員会が適格と判断した者を、理事会の決議により薬理学エデュケーターとして認定する。

第4条（認定に必要な薬理学エデュケーターの要件）

薬理学エデュケーターの登録出願および登録更新には、次の要件を備えることを要する。但し、委員会は、認定についての経過措置を別途定めることができる。

- （1）本会の学術評議員であり年会費を滞納していないこと、または名誉会員または永年会員であること。
- （2）出願時から遡って5年以内に、薬理学会年会又は部会など委員会が指定するイベントに出席して、認定に必要なポイント数を獲得しているとともに、所定の教育・研究活動を行っていること。但し、ポイントの加算方法等は委員会にて別途定める。

第5条（薬理学エデュケーターの認定失効）

薬理学エデュケーターは、次の各号のいずれかに該当したときは、その認定を失効する。

- （1）薬理学エデュケーター認定を辞退したとき。
- （2）本会の学術評議員または名誉会員または永年会員の資格を喪失したとき。
- （3）認定日から5年を経過し、所定の更新をしないとき。
- （4）その他、薬理学エデュケーターとして適格性を欠くと委員会が認め、理事会の承認がなされたとき。

第6条（会費）

初期登録料及び登録更新料については別途定める。既納の初期登録料及び登録更新料については、いかなる事由があっても返還しない。

第3章 規定の変更

第7条（規定の改廃）

本規定の改廃は、委員会にて検討し、理事会の決議をもって発効する。

附 則

この規定は、内閣府による変更認定が承認された日より施行する。

【変更】

定款施行細則

現 行	変 更
第7章 会計及び資産	<p>第7章 薬理学エドキュケーター認定制度 (挿入)</p> <p>第44条 優れた薬理学教育者を育成・支援し、薬理学の知識の普及及び研究水準の向上への貢献を目的として、<u>薬理学エドキュケーター認定制度を設置する。</u></p> <p>2 前項の運営に関し、必要な規則は別に定める。 (以下条項繰り下げ)</p> <p>第8章 会計及び資産</p> <p>附 則 本細則は、内閣府による認定申請が承認された日より施行する。</p>

役員等選挙実施規定

現 行	変 更
<p>第20条</p> <p>3 常置委員会委員選挙の結果については、当選者に加えて次点者から部会委員定数の3分の2までの得票者の順位と得票数を発表する。</p>	<p>第20条</p> <p>3 常置委員会委員選挙の結果については、当選者に加えて次点者から<u>北部会と西部部会においては部会委員定数と同数、関東部会と近畿部会においては部会委員定数の3分の2までの得票者の順位と得票数を</u>発表する。</p> <p>附 則 本規定は平成30年7月1日より施行する。</p>

役員選考委員会規定

現 行	変 更
<p>第3条</p> <p>2 委員は、細則第43条第1項により、新理事会発足後の理事会において理事経験者、常置委員、常置委員経験者、部会長及び部会長経験者の中から候補者を選定する。委員は就任年の4月1日において年齢満65歳未満でなければならない。</p> <p>5 委員は任期満了後も後任者が就任するまでは、その職務を行う。ただし、<u>委員がその任期中、あるいは任期満了後、後任者が就任するまでの間に理事に就任したときは、委員の職務を行うことはできない。</u></p>	<p>第3条</p> <p>2 委員は、細則第43条第1項により、新理事会発足後の理事会において理事経験者、常置委員、常置委員経験者、部会長及び部会長経験者の中から候補者を選定する。委員は就任年の4月1日において年齢満65歳未満でなければならない。<u>次期理事と同じ任期の役員被選挙権者は委員に就任することはできない。</u></p> <p>5 委員は任期満了後も後任者が就任するまでは、その職務を行う。</p> <p>附 則 本規定は平成30年7月1日より施行する。</p>

COI 様式 1-B 開示例(学術講演時に申告すべき COI 状態が有る場合)

(現 行)	(変 更)
<p>COI 開示</p> <p>筆頭発表者： 京都 次郎 責任発表者： 大阪 三郎</p> <p>筆頭および責任発表者の、<u>過去3年間を一括して、COI 関係にある企業など</u></p> <p>講演料：A 製薬、B 製薬 原稿料：C 製薬 奨学寄附金：B 製薬、D 製薬</p>	<p>COI 開示</p> <p>筆頭発表者： 京都 次郎 責任発表者： 大阪 三郎</p> <p>演題発表内容に関連し、筆頭および責任発表者の過去3年間の COI 関係にある企業などは以下のとおりです。</p> <p>講演料：A 製薬、B 製薬 原稿料：C 製薬 奨学寄附金：B 製薬、D 製薬</p>

VIII. 理事会等報告

理事長：吉岡 充弘 以上 1名

理事：安西 尚彦，池谷 裕二，石毛久美子，上園 保仁，植田 弘師，金井 好克，金子 周司，吉川 公平，
木村 英雄，五嶋 良郎，笹栗 俊之，戸村 裕一，西堀 正洋，橋本 均，福永 浩司，谷内 一彦，
矢部 千尋，山田 清文 以上 18名

監事：伊藤 芳久，服部 裕一 以上 2名

オブザーバー：赤池 昭紀，飯野 正光，成宮 周 以上 3名

1. 理事会構成について

平成 30 年度は、吉岡 充弘理事長，橋本 均総務委員長，谷内 一彦財務委員長，山田 清文編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の 19 名で理事会が運営された。監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した。赤池 昭紀前理事長，飯野 正光国際対応委員会委員長，成宮 周 WCP2018 会長兼第 91 回特別年会会長はオブザーバーとして理事会に参加し，理事会運営を支援した。

2. 学会の運営方針について

薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与するため，学会の更なる活性化を目指す理事会方針を踏襲し，1) 理事会の継続性，2) WCP2018 成功に向けた活動，3) 会員支援・サービスの充実，4) 学術集会，特に年会支援体制の構築，5) 学術への貢献及び国内外への情報発信を柱とする学術誌の刊行，6) 各種委員会の機動的な活動に向けた財政面からの支援，を推進する活動方針のもとに学会運営を行った。

3. 学会の在り方と薬理学の展開について

日本医学会の「医学研究の利益相反 (COI) マネージメントに関するガイドライン」に沿い，それぞれの事業で COI の開示に務めた。また役職員・各委員会委員には COI 申告書の提出を義務付け，申告書に不備がないことを定期的に確認している。

1) 学術集会，講演会等の開催事業について

・第91回年会（成宮 周特別年会長）は，第39回日本臨床薬理学会学術集会（川合 眞一学術集会長）と合同で第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）を7月1日から6日まで，国立京都国際会館で開催した。

テーマ：『Pharmacology for the Future (Science, Drug Development and Therapeutica)』

・WCP2018開催初日の7月1日に，国立京都国際会館Room B-2で『くすりほどのように創られるか』のテーマで公開講座が開催された。

・地方部会は富山県，東京都 2 開催，広島県，兵庫県，福岡県の各会場で地域特性を生かした企画で 6 回開催された。

・薬理学振興助成事業の公開講座は第 69 回北部会，第 134 回近畿部会及び第 71 回西南部会で 3 回開催された。

・次世代の会による次世代薬理学セミナーは第 138 回関東部会で開催された。

・看護薬理学セミナーは第 139 回関東部会，第 71 回西南部会それぞれと連携して 2 回開催された。

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は，「特集」記事の不足が予想されたが，若手や 2019 年の年会でシンポジウムを企画するオーガナイザーを中心に特集執筆の呼びかけを行った結果，平成 31 年も毎月発行できる見込みである。

・Japanese Pharmacological Sciences (JPS) の海外著者の論文採択率向上及び IF3.0 以上を目標としている。JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の平成 30 年度受賞者 4 名を決定した。

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき石井 優教授（大阪大学大学院医学系研究科）を第 12 回江橋節郎賞受賞者に決定した。

・第 34 回学術奨励賞受賞者 2 名及び JPS 優秀論文賞受賞論文 2 編を決定した。JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数が多い順に約 10 編を選び，その中から選考されている。

- 4) 薬理学に関する研究及び調査について
- ・ カテゴリー表に新たな項目を追加することおよびカテゴリー表の再編に向けて、所管委員会で検討し、決定した。
 - ・ 全国医学部薬理学教室の講義・実習の実態調査アンケートを行った。
- 5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について
- ・ 第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）を日本臨床薬理学会と共催した。
 会 期：2018 年 7 月 1 日（日）～6 日（金）、開催場所：国立京都国際会館（京都市左京区）
 参加者：4,554 名、参加国数：81 カ国、
 演題数：一般演題、2,362 題（日本：910 題、国外：1,452 題）、
 特別講演：7 題、分野別カッティングエッジ・レクチャー：33 題、85 のシンポジウム
 - ・ 第 50 回インド薬理学会年会（2018 年 2 月 15～17 日、ムンバイ市）に飯野国際対応委員長が参加し招待講演を行った。
 - ・ IUPHAR Nomenclature Committee（NC-IUPHAR）の会合（2018 年 5 月 18 日～20 日、エディンバラ）に金井 好克教授（大阪大学）が参加した。
 - ・ IUPHAR Education Project（発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム）に 3 年間の期限付き財政援助の第 3 回目として平成 30 年度分 1 万ドルを送金した。
4. 「薬理学エデュケーター認定制度」を創設し、平成 31 年開催の第 92 回年会から参加ポイントを発行することを決定した。本制度は、公益目的事業以外の「その他事業」に位置づけられる。
5. 代議員選挙の実施
 代議員選挙を実施し、140 名を選任した。任期は、平成 30 年 10 月 5 日から 2 年後に実施される代議員選挙の日までである。
6. 役員候補者選挙、常置委員会選挙及びの実施
 前回に引き続き、1 年前倒しの役員候補者選挙を実施した。第 92 回年会の学術評議員会出席学術評議員により役員選挙投票を行い、選出された候補者は役員選考委員会選出理事候補者とともに、2020 年 3 月の総会で選任された後、就任する。
7. 第 94 回（2021 年）年会長候補者の決定
 第 94 回日本薬理学会年会長として北海道大学大学院医学研究院の吉岡 充弘教授が提案され、承認された。
8. 名誉会員の推薦
 平成 31 年度に就任する名誉会員候補者 4 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。
 赤池 昭紀、倉智 嘉久、成宮 周、松本 欣三 以上 4 名
9. 永年会員の推薦
 平成 31 年度に就任する永年会員候補者 10 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した。
 尾崎 昌宣、櫻田 忍、鈴木光太郎、富山 格、野口 昭文、福井 裕行、矢野 眞吾、山添 康、
 山田 静雄、山西 嘉晴
10. 平成 31 年度薬理学振興助成事業決定について
 1) 次世代薬理学セミナー、2) 市民公開講座、3) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2019、4) 看護薬理カンファレンス 2019、5) 第 92 回年会 IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会、6) 第 92 回アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー、7) 第 92 回年会若手研究者キャリア支援プログラム、8) 第 92 回年会日韓薬理学合同セミナー、9) 「創薬における日本の薬理学の貢献（仮題）」パンフレット作製の各助成事業及び助成額を決定した。
11. 平成 30 年度の事業報告及び決算を承認し、学術評議員会及び総会に付議する。平成 31 年度事業計画及び予算は、平成 30 年 11 月 30 日開催の理事会の承認、決定を経て内閣府に提出した。
12. 平成 30 年度の新規入会者 390 名を承認し、平成 31 年度からシニア割引適用を希望する 30 名を承認した。

2020, 2021 役員年度 役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者被選挙権者の推薦

平成 30 年 10 月 1 日：学会ホームページ会員専用サイトに被選挙権有資格者名簿公示，Web 推薦受付開始

10 月末日：推薦締切

11 月 9 日：役員候補者被選挙権者確定 開票管理者 橋本 均 総務委員長
安西 尚彦 総務委員

2 名以上からの推薦を受け役員候補者被選挙権者となった者	北	関東	近畿	西南	
	20	109	87	28	
	推薦権行使者数				378
	推薦権行使率				30.4(%)

2. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

平成 30 年 11 月 15 日： 会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン

12 月 10 日： 投票締切

15 日： 4 部会一斉開票（候補者決定）

18 日： 選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	68	214	197	71	550
投票率	50.4	40.5	45.8	47.0	44.2(%)
(前回)	(47.3)	(43.6)	(48.0)	(51.9)	(46.5)

開票管理者 北 部 会： 松本 欣三 部会長， 橋本 均 総務委員長

関東部会： 榎山 俊彦 部会長， 橋本 均 総務委員長

近畿部会： 徳山 尚吾 部会長， 橋本 均 総務委員長

西南部会： 笹栗 俊之 部会長， 橋本 均 総務委員長

【Web 選挙結果】（50 音順）

理事候補者

北 部 会： 石井 邦明， 福永 浩司， 南 雅文， 谷内 一彦 以上 4 名

関東部会： 赤羽 悟美， 安西 尚彦， 石川 智久， 木内 祐二， 小泉 修一，
五嶋 良郎， 杉山 篤， 田中 光， 成田 年， 三澤日出巳 以上 10 名

近畿部会： 上原 孝， 金子 周司， 田熊 一徹， 富田 修平， 西堀 正洋，
西山 成， 原 英彰， 古屋敷智之， 矢部 千尋， 吉栖 正典 以上 10 名

西南部会： 甲斐 広文， 武田 泰生， 津田 誠， 宮田 篤郎 以上 4 名

監事候補者 稲垣 直樹， 大矢 進， 笹栗 俊之， 関野 祐子， 高橋 健三， 新田 淳美 以上 6 名

3. 役員選挙（第二段選挙：年会時学術評議員会出席者による投票）

平成 31 年 2 月号： 日薬理誌（153：2）に役員候補者名簿掲載。

平成 31 年 2 月 8 日： 役員候補者の抱負を会員へのお知らせに掲載。

15 日： 学会ホームページに役員候補者名簿公示。

3 月 14 日： 年会時学術評議員会で理事・監事選挙実施。

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 2. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）。

IX. 委員会等報告

(各委員会委員名は五十音順、敬称略)

総務委員会報告

委員長：橋本 均

委員：安西 尚彦，香月 博志，川畑 篤史，木村 英雄，関野 祐子，土屋浩一郎，守屋 孝洋

本年度は6月9日，11月19日に委員会を開催した。

1. 役員等候補者選挙実施規定の変更について

平成30年度第4回理事会において2020年に就任する役員候補者等選挙の1年前倒しが決定し，本年に役員候補者等選挙と代議員選挙が実施されることに伴い，役員等選挙実施規定の常置委員選挙結果の発表に係る規定の一部を変更する案を理事会に提案した。

1) 役員等選挙実施規定は，現行規定に定められている「繰り上げる次点者の発表数」では不足が懸念されるため，第20条3項「常置委員会委員選挙の結果については，当選者に加えて次点者から北部会と西南部会においては部会委員定数と同数，関東部会と近畿部会においては部会委員定数の3分の2までの得票者の順位と得票数を発表する。」下線部を追加する変更である。

2. 代議員選挙の選挙投票率の向上ならびに開票報告について

平成28年度の代議員選挙において，投票率が北部会を除き20%を割り込んでいた。当該選挙では新会員システムを使用したWeb投票となるため，日薬理誌7月号に「新会員システムへのログインのお願い」を掲載し，新会員システムにログインしていない学術評議員宛ログイン情報を再送し，会員登録情報の確認を再度周知した結果，9月実施の代議員選挙投票率は，前回の最終投票率18.5%から約5%上昇し23.2%となったことが理事会にて報告された。

3. 役員選挙実施前の候補者事前紹介について

役員選挙前に候補者の略歴や抱負等を有権者に公開することは，候補者のプロフィールを知る有効な手段となることから，抱負等を会員専用サイトの会員向けのお知らせ欄に掲載する案を理事会に提案し承認を得て，2019年実施の役員選挙に合わせて実施することとした。

4. COI申告書様式文言追加修正について

COI申告書様式1-B（学術講演時に申告すべきCOIがある場合）の開示例を追加修正することとした。下線部のとおり追加修正する。

「演題発表内容に関連し，筆頭および責任発表者の過去3年間のCOI関係にある企業などは以下のとおりです。」

5. 新名誉会員・新永年会員の推薦について

名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，平成31年度に就任する名誉会員候補者4名，永年会員候補者10名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した。

6. シニア会費適用の申請について

平成31年度会費からのシニア会費適用の申請について審査を行い，申請者30名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した。

7. 薬理学エドゥケーター認定制度の規則変更の件

薬理学エドゥケーター認定制度の実施に伴い，実施要項，定款施行細則ならびに薬理学エドゥケーター認定制度規定案を確認し，理事会の承認を得た。

8. 年会費の請求方法について

年会費請求書の郵送経費の見直しと今後の会費納入方法について検討するよう財務委員長からの依頼をうけ，以下の通り理事会に報告した。会費納入の75%が会費請求書を使用した納入（郵便振替・コンビニ）であることから郵送取扱を継続する必要がある。また，メールや会員システムの会員向けお知らせ欄への掲載のみに切り替えた場合は会費納入が減少する可能性があり，クレジットカード決済が増加する場合はその手数料増大（学会負担）の懸念があるため，これらを考慮する必要がある。

利益相反（COI）委員会報告

委員長：橋本 均

委員：安西 尚彦，香月 博志，川畑 篤史，木村 英雄，関野 祐子，土屋浩一郎，守屋 孝洋

本年度は6月9日，11月19日に委員会を開催した。

理事会構成員，部会長，日薬理誌の筆頭著者，事務局職員の利益相反（COI）申告書に問題が無いことを確認した。

財務委員会報告

委員長：谷内 一彦

委員：赤羽 悟美, 石毛久美子, 上園 保仁, 植田 弘師, 平 英一, 武田 弘志, 津田 誠, 富田 修平
吉栖 正典, 赤池 昭紀 (オブザーバー)

委員会は平成 30 年度の決算処理を行い、平成 31 年度の予算案を編成した。前期からの申し送り事項「事業を行う委員会に財務委員と兼務する委員を置く」に基づき、赤羽委員が研究推進委員と国際対応委員を、石毛委員が広報委員と年会学術企画委員を、上園委員が編集委員と企画教育委員をそれぞれ兼務している。

1. 平成 30 年度決算について

平成 30 年度は、7 月に開催された第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議 (WCP2018) の収支黒字額約 197 万円が学会会計に組み込み入れられたものの、会費収入の減少と出版事業収支の低迷が続き、約 405 万円の赤字額で決算した。WCP2018 の開催により、例年に比べて 1 億円ほど事業規模が拡大し、収入は 2 億 6,664 万 6,750 円、支出は 2 億 6,999 万 6,131 円となった。

会費収入は、第 92 回年会での演題発表のために新規入会者が増えたが、学術評議員会費は定年退職等に伴うシニアの退会が続いており、賛助会員企業の合併による退会等も影響し、前年に比べ会費収入全体で約 130 万円減少した。

刊行事業は、英文誌 (JPS) の電子ジャーナル掲載頁数が 800 頁から 1,300 頁内となり、エルゼビアの業務委託費は 1,500 万円となった。掲載頁数が 800 頁を境に大幅に変わる現契約を見直す方向で編集委員会主導で契約更改交渉を行っている。和文誌は購読料、論文掲載料、広告掲載料が減少したこと、また平成 30 年度よりカラー印刷代の実費を学会が負担することになり、毎年 140 万円ほどの新たな費用負担が発生する。会員の情報誌である位置づけを変えることなく、発行の在り方について担当委員会で検討を行ってもらおうよう申し入れた。

管理費では、9 月よりワンネットシステムに会員管理業務を委託したことで外部委託費が増加した。また会員管理システムでカード決済できる項目が増えたため支払手数料が増加した。

2. 平成 31 年度予算案編成の件

平成 31 年度予算は、平成 30 年度の決算見込み額に基づいて編成した。

会費収入は、賛助会員の動向及び個人会員の減少が背景にあり、平成 30 年度予算の会費収入より約 340 万円減額して計上した。新たに導入が予定されている薬理学エドゥケーター認定制度は、初年度申請者数を 100 名と想定し 150 万円を雑収入に、運営費用として雑費に 50 万円を計上している。薬理学エドゥケーター認定制度を広報し、会員数の維持を図ること、そのためには、会員が薬理学エドゥケーター資格を取得し、その後も更新を続けることがメリットとなるような制度に作り上げていくことが財政面においても重要となる。

平成 31 年は英文編集出版の 5 年契約の最終年度であること、国際情報発信科研費の補助金も最終となる。今後の国際情報発信科研費の取得の可能性は不透明であり、常勤職員 2 名体制による事務局の在り方、外部委託についての検討も急務となっている。

以上により、平成 31 年度の収入は 1 億 5,093 万円、支出は約 1 億 6,003 万円となり、収支差額約 910 万円の赤字予算を編成することとなった。

3. 内閣府への変更認定申請の件

平成 31 年度の薬理学エドゥケーター認定制度の実施に向けて、手続き確認のために委員長が内閣府を訪問した。内閣府の担当官より 1) 薬理学エドゥケーターは会員の一つの 카테고리ではないこと、2) 対象者が一部の会員に限定されていることから当該事業は『その他事業』に該当し、変更認定申請が必要であるとの回答があり、変更認定申請を行うこととなった。変更認定申請は、公益移行認定と同程度の書類の作成が必要のため、職員では対応できない場合のサポート費用を業務委託費に計上した。

4. その他決定事項、報告事項等

- 平成 31 年度の財務委員会の活動計画の一環で、日本製薬工業協会、日本ジェネリック製薬協会、日本 OTC 医薬品協会の各加盟企業に、賛助会員の働きかけを行うことを決定した。
- 公益法人が遵守すべき財務基準の遊休財産規制に抵触せず、また、公益目的事業で黒字額を発生させないよう (収支相償) 会計処理を行っている。

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief) : 山田 清文

委員(JPS Associate Editors) :

稲垣 直樹 (MMU担当), 上園 保仁, 大野 行弘, 黒川 洵子, 小林 真之, 笹栗 俊之, 田熊 一徹 (Press Editor), 辻 稔, 西堀 正洋, 西山 成, 新田 淳美

I. JPS 投稿・審査状況 (投稿数, 採択率, Impact Factor)

1. 受付論文数 (2018 年 1 月 1 日~12 月 31 日受付. Review を含む.)

1) 分野別 : () 内は海外からの内数

1 生理活性物質	23 (20)
2 受容体・チャネル・輸送系	34 (25)
3 細胞内情報伝達	55 (51)
4 生化学薬理	105 (88)
5 末梢神経薬理	6 (2)
6 心血管薬理・血液	30 (25)
7 中枢神経薬理	23 (7)
8 呼吸器薬理	1 (0)
9 腎薬理	22 (20)
10 消化器薬理	25 (18)
11 平滑筋薬理	6 (3)

12 骨・歯科薬理	21 (17)
13 内分泌薬理	10 (9)
14 臨床薬理	36 (25)
15 免疫薬理・炎症	30 (23)
16 化学療法	5 (3)
17 毒科学	11 (8)
18 Natural medicine materials	12 (11)
19 幹細胞薬理	0 (0)
20 疼痛薬理	2 (1)
21 生物製剤薬理	3 (3)
合計	460 (359)

2) 国別

China 287, Japan 101, Korea 21, USA 8, Iran 4, India 3, Taiwan 3, Thailand 3, Czech Republic 2, Indonesia 2, Mexico 2, Saudi Arabia 2, Tunisia 2, Turkey 2, Australia 1, Austria 1, Brazil 1, Canada 1, Egypt 1, Germany 1, Hungary 1, Iraq 1, Italy 1, Jamaica 1, Kuwait 1, Malaysia 1, Nepal 1, Romania 1, Russia 1, Spain 1, Sweden 1, UK 1

2. 採択率 (投稿年別)

2009年 47%, 2010年 49%, 2011年 50%, 2012年 50%, 2013年 48%, 2014年 42%, 2015年 32%, 2016年 34%, 2017年 34%, 2018年 25% (国内論文 54%, 海外論文 16%)

*注 : 2019年1月24日現在, 審査中52件 (著者改訂中27件).

3. Impact Factor (Journal Citation Report JCR® 発表)

2008年 : 2.599, 2009年 : 2.176, 2010年 : 2.260, 2011年 : 2.082, 2012年 : 2.150, 2013年 : 2.114, 2014年 : 2.360, 2015年 : 2.106, 2016年 : 2.415
2017年 : 2.575 (国内発行の自然科学系 251 誌中 31 位)

II. JPS 刊行状況 : 本資料の「事業報告」の項に記載

III. JPS 審議・決定, 報告事項

1. 編集体制について

国内12名, 海外7名の編集体制であったが, 新たにDr. Tangui Nicolas Maurice (University of Montpellier, 任期 : 2018.7.1-2022.6.30), Dr. Frank A. Redegeld (Utrecht University, Netherland, 任期 : 2018.11.1-2021.10.31) を海外Editorに選任し, 海外Editorは9名となった.

国内編集委員は12名中5名 (石毛久美子, 兼松 隆, 田中 光, 津田 誠, 松本 欣三) が退任となり, 以下の5名が新たに選任された.

- ・稲垣 直樹 (岐阜大学)
- ・小林 真之 (日本大学)
- ・辻 稔 (国際医療福祉大学)
- ・西山 成 (香川大学)
- ・新田 淳美 (富山大学)

2. JPS優秀論文賞について

JPS優秀論文賞規定およびJPS優秀論文賞受賞論文選考規定に従って、平成27年度から平成29年度掲載分の原著論文の中から、第23回JPS優秀論文賞受賞論文2編を決定した。

- ・ Glutamine protects against cisplatin-induced nephrotoxicity by decreasing cisplatin accumulation
Hyun-Jung Kim, Dong Jun Park, Jin Hyun Kim, Eun Young Jeong, Myeong Hee Jung, Tae-Ho Kim, Jung Ill Yang, Gyeong-Won Lee, Hye Jin Chung, Se-Ho Chang
Vol. 127, No. 1 pp. 117-126 (2015)
- ・ Involvement of TRPM2 in a wide range of inflammatory and neuropathic pain mouse models
Kanao So, Kayo Haraguchi, Kayoko Asakura, Koichi Isami, Shinya Sakimoto, Hisashi Shirakawa, Yasuo Mori, Takayuki Nakagawa, Shuji Kaneko
Vol. 127, No. 3 pp. 237-243 (2015)

3. JPS 優秀査読者賞について

JPS 優秀査読者賞規定およびJPS優秀査読者選考規定に従って、2018年度JPS優秀査読者4名を決定した。

- ・ Tatsuhiko Furukawa (Kagoshima University)
- ・ Kinzo Matsumoto (Institute of Natural Medicine, University of Toyama)
- ・ Daisuke Nakano (Graduate School of Medicine, Kagawa University)
- ・ Takeya Sato (Tohoku University School of Medicine)

2018-2019年度 Editor および Advisor の担当分野

Classifications		Editors	Advisors
01	Biogenic active substances	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Masahiro Nishibori, Akira Nishiyama, Andrew Lawrence, Peter Wong, Naoki Inagaki, Tangui Maurice	Naohiko Anzai, Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Susumu Ueno, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Kazunao Kondo, Hikaru Tanaka, Hiroyuki Tanaka, Yoshio Tanaka, Makoto Tsuda, Kohji Fukunaga, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagida, Hye Sun Kim
02	Receptors / Channels / Transport systems	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Masayuki Kobayashi, Kazuhiro Takuma, Minoru Tsuji, Masahiro Nishibori, Shenuarin Bhuiyan, Andrew Lawrence, Tangui Maurice, Peter Wong	Naohiko Anzai, Kumiko Ishige, Yoichiro Isohama, Hitoshi Ishibashi, Susumu Ueno, Shinya Uchida, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Makoto Tsuda, Katsuya Hirano, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagida, Ross Bathgate, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Abdur Razzaque, Jutamaad Satayavivad, Nasir Uddin, Masaki Mogi, Yukio Ago
03	Intracellular signaling	Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Atsumi Nitta, Feng Han, Tangui Maurice	Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Hiroshi Katsuki, Takashi Kanematsu, Yasuo Kizawa, Junzo Kamei, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Hikaru Tanaka, Makoto Tsuda, Katsuya Hirano, Kohji Fukunaga, Toshihiko Yanagida, Ross Bathgate, Jinsong Bian, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Ying-mei Lu, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Yuxian Shen, Bruno Vincent, Wen-Xia Zhou, Yukio Ago
04	Biochemical and Molecular pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma, Masahiro Nishibori, Atsumi Nitta, Shenuarin Bhuiyan, Tangui Maurice, Peter Wong	Kumiko Ishige, Shinya Uchida, Takashi Kanematsu, Yutaka Koyama, Hikaru Tanaka, Ross Bathgate, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Abdur Razzaque, Yang Sun, Nasir Uddin, Masaki Mogi, Yukio Ago
05	Peripheral nervous system pharmacology	Yasuhito Uezono, Naoki Yoshimura	Hitoshi Ishibashi, Yoichiro Isohama, Junzo Kamei, Tadayoshi Takeuchi, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Naoki Matsumoto, Toshihiko Yanagida

06	Cardiovascular pharmacology / Hematology	Junko Kurokawa, Toshiyuki Sasaguri, Masahiro Nishibori, Akira Nishiyama, Shenuarin Bhuiyan	Naohiko Anzai, Kazuo Umemura, Kazunao Kondo, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Masato Tsutsui, Katsuya Hirano, Kohji Fukunaga, Naoki Matsumoto, Jinsong Bian, Abdur Razzaque, Jutamaad Satayavivad, Nasir Uddin, Masaki Mogi
07	Central nervous system pharmacology	Yasuhito Uezono, Yukihiro Ohno, Masayuki Kobayashi, Kazuhiro Takuma, Minoru Tsuji, Atsumi Nitta, Naoki Yoshimura, Feng Han, Andrew Lawrence, Tangui Maurice, Yoo-Hun Suh, Peter Wong	Hiroaki Araki, Kumiko Ishige, Hitoshi Ishibashi, Katsunori Iwasaki, Susumu Ueno, Hiroshi Katsuki, Naoko Kuzumaki, Junzo Kamei, Tsutomu Kotegawa, Yutaka Koyama, Norio Sakai, Toshiaki Sendo, Takeshi Takarada, Yasuo Takeda, Makoto Tsuda, Shogo Tokuyama, Kohji Fukunaga, Kinzo Matsumoto, Toshihiko Yanagida, Young Hae Chong, Hye Sun Kim, Ying-mei Lu, Alessandra Mallei, Laura Musazzi, Jutamaad Satayavivad, Yuxian Shen, Clare Parish, Bruno Vincent, Wen-Xia Zhou, Yukio Ago
08	Respiratory pharmacology	Naoki Inagaki, Kazuhiro Takuma	Yoshihiko Chiba, Yoichiro Isohama, Junzo Kamei, Yasuo Kizawa, Hiroyuki Tanaka, Naoki Matsumoto, Jutamaad Satayavivad, Hirokazu Mizoguchi
09	Renal pharmacology	Yukihiro Ohno, Toshiyuki Sasaguri, Akira Nishiyama, Shenuarin Bhuiyan	Hiroaki Araki, Naohiko Anzai, Toshiaki Sendo, Naoki Matsumoto, Tomoe Fujita, Abdur Razzaque, Nasir Uddin
10	Gastrointestinal pharmacology	Yasuhito Uezono	Jutamaad Satayavivad, Tadayoshi Takeuchi
11	Smooth muscle pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Naoki Yoshimura	Yasuo Kizawa, Tadayoshi Takeuchi, Hikaru Tanaka, Yoshio Tanaka, Katsuya Hirano
12	Bone and dental pharmacology	Masayuki Kobayashi, Toshiyuki Sasaguri, Kazuhiro Takuma	Keiichi Ohya, Takashi Kanematsu, Kinzo Matsumoto, Akifumi Togari, Masaki Mogi, Mitsuhiro Ohshima, Takeshi Takarada, Hiromasa Tsuda
13	Endocrine pharmacology	Akira Nishiyama, Govitrapong	Akifumi Togari, Shogo Tokuyama, Kohji Fukunaga, Toshihiko Yanagida, Ross Bathgate
14	Clinical pharmacology	Toshiyuki Sasaguri, Masayuki Kobayashi, Kiyofumi Yamada	Hiroaki Araki, Naohiko Anzai, Shinya Uchida, Kazuo Umemura, Tsutomu Kotegawa, Kazunao Kondo, Toshiaki Sendo, Yasuo Takeda, Shogo Tokuyama, Masahiro Tsuboi, Tomoe Fujita, Naoki Matsumoto
15	Immunopharmacology / Inflammation	Naoki Inagaki, Toshiyuki Sasaguri, Masahiro Nishibori, Qiang Xu	Hiroyuki Tanaka, Young Hae Chong, Yuxian Shen, Yang Sun, Yuichi Hattori
16	Chemotherapy	Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri	Yasuo Takeda, Masahiro Tsuboi, Yang Sun
17	Toxicology	Yukihiro Ohno, Junko Kurokawa, Kazuhiro Takuma, Feng Han	Susumu Ueno, Ying-mei Lu, Jutamaad Satayavivad, Wen-Xia Zhou
18	Natural Medicine Materials	Naoki Inagaki, Yasuhito Uezono, Toshiyuki Sasaguri, Minoru Tsuji, Feng Han	Yoichiro Isohama, Katsunori Iwasaki, Masahiro Tsuboi, Kinzo Matsumoto, Ying-mei Lu, Jutamaad Satayavivad, Wen-Xia Zhou
19	Stem cell pharmacology	Junko Kurokawa, Shenuarin Bhuiyan, Yoo-Hun Suh	Takeshi Takarada, Abdur Razzaque, Nasir Uddin
20	Pain pharmacology	Yasuhito Uezono, Masayuki Kobayashi, Minoru Tsuji, Feng Han	Junzo Kamei, Makoto Tsuda, Ying-mei Lu, Wen-Xia Zhou, Hirokazu Mizoguchi
21	Biopharmaceutical pharmacology	Naoki Yoshimura, Feng Han, Shenuarin Bhuiyan	Ying-mei Lu, Abdur Razzaque, Nasir Uddin, Wen-Xia Zhou

研究推進委員会報告

委員長：福永 浩司

委員：赤羽 悟美, 石川 智久, 岩崎 克典, 高井 真司, 戸村 裕一, 成田 年, 西山 成, 若森 実

本年度は委員会を1回開催した。

1. 「Outstanding Drugs Developed in Japan」の日本語パンフレットについて

WCP2018の参加者へ配布した「Outstanding Drugs Developed in Japan」の日本語版パンフレット作成に向けて、体裁、内容、制作手順等を決定した。

パンフレットは、1) A4版のパンフレットとし、PDF版を学会ホームページに掲載する。2) 対象（読者）を若手研究者、大学院生とし、薬理学の魅力伝える内容にする。3) 「Outstanding Drugs Developed in Japan」に掲載した12品目について、著者および企業と調整して作成する。4) 化合物構造と作用機序に関する図を挿入し、わかりやすく親しみやすいものにする。5) 作図は専門イラストレーターに依頼して統一する。6) 2019年度内を目途に委員が分担して日本語版を作成する。

2. 2008年に刊行した「医学と医療における日本の薬理学の貢献」パンフレットについて

最近の薬理学の新展開・新技術も含め、改訂に向けて引き続き検討する。改訂は次回の研究推進委員会に委ねる。

3. 次世代薬理学セミナー

日本薬理学会次世代の会の世話人および企画教育委員会と連携を図り、年2回の次世代薬理学セミナーを実施する。2019年7月6日の第140回関東部会（部会長：亀井 淳三 星薬科大学・教授）と2019年11月16日の第72回西部部会（部会長：山本 秀幸 琉球大学大学院医学研究科・教授）での開催の準備を進めている。

4. 第92回薬理学会年会に開催予定の日韓薬理学セミナー（仮称）の支援を行う。

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：金子 周司

委員：天野 託, 石井 邦明, 石毛久美子, 石澤 啓介, 吉川 公平, 佐藤 薫, 永井 拓, 原 英彰, 古屋敷智之, 宮田 篤郎, 山田 久陽

2018年3月10日と6月18日に委員会を開催した。

1. 日薬理誌の特集予定について

例年3月に開催されている年会がWCP2018と同時に開催されることにより、日本人のみが行うシンポジウムがなくなり、日薬理誌への「特集」掲載記事が不足することが予想された。そのため会員に記事の募集を積極的に行い、特に若手や2019年会でシンポジウムを企画されるオーガナイザーの方を中心に特集執筆の呼びかけを行った。その結果、2019年は日薬理誌を毎月発行できる見込みとなった。

2. 日薬理誌に掲載する条件について

掲載記事の内容について再検討を行い、国立研究所の部長職に就任した会員についても、新教授紹介欄に記事を掲載すること、書評の掲載希望が寄せられた場合にこれまでの広告出稿の条件を外すことを決定した。

3. カラー印刷について

日薬理誌に掲載されるカラー図表については、費用が学会負担となるため、掲載の適否については都度、委員会が判断を行うこととした。

4. 英文抄録について

日薬理誌に掲載することになった英文抄録について、他書で用いた英文を転用したことで二重投稿の問題が発生したケースがあったため、注意喚起を行い、今後の依頼時にも注意喚起の文を添付することとなった。

5. YouTubeによる動画配信について

従来より学会ホームページの会員認証エリアで動画を提供していたが、WCP2018を機会にYouTubeに学会アカウントを開設し、一般にも動画を配信できるようにした。第一弾としてWCP2018オープニングイベントの動画を公開したところ、特に本庶教授のレクチャーは4ヶ月で1000回を超える視聴回数となった。

企画教育委員会報告

委員長：池谷 裕二

委員：上園 保仁, 大矢 進, 金井 好克, 木内 祐二, 久米 利明, 五嶋 良郎, 谷村 明彦, 柳田 俊彦, 矢部 千尋

委員会を2回開催し、所管事項について検討を行った。

1. 新学術評議員選考の件

新学術評議員選考規定に照らし、平成31年度に就任する新学術評議員申請者73名について申請書および業績目録等に基づき審査を行った。うち71名は要件を満たしており、学術評議員候補者として選定した。残りの2名についても、新学術評議員選考規定第6条による特例措置を適用して候補者とした。以上73名の候補者について、理事会および学術評議員会に諮ることとした。

2. 薬理学エドゥケーター認定制度の件

2019年6月に薬理学エドゥケーターの認定申請を受け付けることとなった。ポイントの付与は第92回日本薬理学会年会より開始されるが、本年の申請については、すでに薬理学教育経験が豊富な会員を対象とした特例措置のみの受付となる。同制度の趣旨および詳細を日本薬理学雑誌153巻3号に掲載した。

3. 看護への取組み、看護大学等との連携の件

看護職者のキャリアアップを図り、看護職者が薬理学の教育研究者として活躍できることを目的に、(1)第139回日本薬理学会関東部会、第71回日本薬理学会西南部会および第92回日本薬理学会年会での看護薬理学カンファレンス、(2)日本看護研究学会第44回学術集会における看護薬理学公開セミナー、(3)第38回日本看護科学学会学術集会におけるランチョンセミナー「看護師が知っておくべき薬理学」を開催した。これらの試みは看護関係者から好評を得ており、本年も事業を継続する。

4. 専門分野カテゴリー表について

カテゴリー表が2003年以降に変更されていなかったため、現状に即すよう変更を行った。従来のキーワードの三階層構造を排除し、カテゴリー選択を簡素化した。

賞等選考委員会報告

委員長：植田 弘師

委員：池谷 裕二, 上園 保仁, 牛首 文隆, 甲斐 広文, 金田 勝幸, 吉川 公平, 西山 成, 古屋敷智之

委員会を1回開催し、以下について審議した。

1. 第34回(平成31年度)学術奨励賞受賞候補者の選考について

「賞等選考委員会規定」、「学術奨励賞規定」、「学術奨励賞受賞者選考規定」を確認した。さらに、推薦者の評価方法について確認した。

次いで、候補者9名の推薦書について、「薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を發表し、将来発展の期待される研究者に対し授与する」(学術奨励賞規程第2条から抜粋)に基づく観点により、事前に全委員が審査した評価をもとに、本委員会ではそれらを多角的に分析し、本賞の趣旨、特に、学術奨励賞規定にある「研究業績はその主要な部分が日本国内で行われたものに限る」こと、および、「薬理学会への貢献度」を踏まえ、評価上位2名を受賞候補者とすることを決定し、村松里衣子氏、山下直也氏を第34回(平成31年度)学術奨励賞の受賞候補者として、選考の経過とともに理事長に答申した(受賞者は表4に掲載)。

2. 平成31年度薬理学進行助成事業の選考について

申請があった下記の9件について審査の結果、本委員会は全ての申請を採択する旨理事会に答申した。

- | | | |
|------------------------------------|----------|----------------------------|
| 1) 次世代薬理学セミナー(2開催分) | 504,000円 | ---企画教育委員会・研究推進委員会・次世代の会申請 |
| 2) 市民公開講座(3開催分) | 900,000円 | ---広報委員会申請 |
| 3) ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2019 | 400,000円 | ---ダイバーシティ推進事業申請 |
| 4) 看護薬理カンファレンス2019 | 800,000円 | ---企画教育委員会申請 |
| 5) 第92回年会 IUPHAR データベース・電子教科書利用講習会 | 454,400円 | ---第92回年会申請 |
| 6) 第92回アカデミア創薬のためのレギュラトリーサイエンスセミナー | 270,000円 | ---第92回年会申請 |
| 7) 第92回年会若手研究者キャリア支援プログラム | 530,000円 | ---第92回年会申請 |
| 8) 第92回年会日韓薬理学合同セミナー | 795,000円 | ---第92回年会申請 |
| 9) 「創薬における日本の薬理学の貢献(仮題)」パンフレット作製 | 350,000円 | ---研究推進委員会申請 |

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

- ・日本学術振興会育志賞： 1名を学会推薦
- ・日本医師会医学賞： 1名を学会推薦
- ・島津科学技術振興財団 島津奨励賞： 1名を学会推薦

年会学術企画委員会報告

委員長：石毛久美子

委員：池谷 裕二，大矢 進，木内 祐二，戸村 裕一，西山 成，宮田 篤郎，渡邊 裕司

オブザーバー：金井 好克，五嶋 良郎

第92回年会長の金井好克先生，第93回年会長の五嶋良郎先生がオブザーバーとして参加した。2018年8月31日に委員会を開催し，その他にメール会議で審議等を行った。

1. 第92回年会について第92回金井年会長より，企画案が提示され，了承された。第92回年会のテーマは「創造と協奏～薬理学の新たな地平を拓く～ Concerto on science and innovation toward new horizon of pharmacology -」であり，国際薬理学・臨床薬理学会議WCP2018（2018年7月・京都）での成果を引き継ぐ重要な年会と位置付けられ，プレナリーレクチャー（2枠），特別講演（10枠），JPS-ASPET Lecture（1枠），各種シンポジウム・ワークショップ，一般演題（口頭・ポスター），学生セッションなど90回年会とほぼ同様の内容が示された。また，特別講演及び研究発表からなる日韓合同セッションの開催も示された。年会企画シンポジウムとして，「医療ビッグデータに基づく薬理学研究」，「ネットワーク・オミクス解析によるデータ駆動型創薬研究」の2テーマが企画された。

2. 第92回年会における他学会との共催シンポジウムについて

第92回年会における他学会との共催シンポジウムは以下の通りである（順不同）

・日本毒性学会との共催シンポジウム

『神経毒性研究の新展開：神経障害の発症メカニズムと評価法の先端研究』

オーガナイザー：

大野 行弘（大阪薬科大学薬品作用解析学研究室）

山田 久陽（大正製薬株式会社）

・日本組織細胞化学会との共催シンポジウム

『薬理学研究に使える形態学的手法の基礎』

オーガナイザー：

齋藤 尚亮（神戸大学バイオシグナル総合研究センター）

小澤 一史（日本医科大学大学院医学研究科）

・日本リウマチ学会との共催シンポジウム

『免疫薬理学－免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割』

オーガナイザー：

石井 優（大阪大学大学院医学系研究科 免疫細胞生物学）

今井 由美子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 感染病態制御ワクチンプロジェクト）

・日本臨床薬理学会との共催シンポジウム

『基礎・臨床研究連携のフロンティア』

オーガナイザー：

松本 直樹（聖マリアンナ医科大学医学部薬理学講座）

木内 祐二（昭和大学医学部薬理学講座医科薬理学部門）

3. 第92回年会の公募シンポジウムについて

公募シンポジウム32件の応募があった。年会学術企画委員会でオブザーバーの金井年会長及び五嶋次期年会長を交えて，学術的なレベルの高さ，新規性，話題性など様々な角度から，年会公募シンポジウムとして相応しいか否かについて審議し，30件を採用した。

4. 企業企画シンポジウムおよびワークショップにつて

前期委員会において，公募の企業枠を設定し，企業の積極的参加を促すことが提案されていたが，上記公募シンポジウム募集中に企業からの応募はなく，企業枠に対しては，締切後に追加の募集を実施した。その後の応募により，第92回年会においては，4枠の企業企画シンポジウムと1枠のワークショップ（シンポジウムへの応募ワークショップとして採用）が採用された。

江橋賞選考委員会報告

委員長：赤池 昭紀

委員：審良 静男, 栗原 敏, 清野 進, 祖父江 元, 米田 悦啓 (以上学会外委員)
今泉 祐治, 鈴木 勉, 中谷 晴昭, 矢部 千尋

第12回江橋賞候補者選定のための委員会を10月26日に開催した。

1. 第12回江橋節郎賞候補者選考経過について

- ・江橋節郎賞はこれまで独創的、飛躍的な業績をあげた研究者に授与されてきたが、平成28年に今後の薬理学の発展に貢献できる40～50歳代の研究者も賞の対象とする規定の変更があり、今回の候補者は3名となった。
- ・候補者3名について、i) 独創性、ii) 世界から見た位置づけ、iii) 当該分野に与えた影響度、iv) 研究の流れ、今後の発展性、の4項目についてそれぞれ10点を満点とする事前評価を行ったが、事前評価結果は本選考において参考とすることとした。
- ・学会内委員による各候補者紹介の後、i) 独創性、ii) 世界から見た位置づけ、iii) 当該分野に与えた影響度、iv) 研究の流れ、今後の発展性、について意見交換を行った。
- ・候補者の決定は投票によることとし、意見交換の後、議長を除く出席者6名で無記名投票を行った結果、投票数の3分の2以上を得票した大阪大学大学院医学系研究科教授の石井 優氏を、第12回江橋節郎賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した。

候補者の研究テーマ：『生命動態イメージング技術の開発と免疫・炎症ダイナミクスの解明』

2. 受賞候補者の研究について

石井候補は、多光子励起顕微鏡を駆使し、スフィンゴシン1リン酸(S1P)が破骨前駆細胞の血液と骨組織間の移動および分布に深く関与していることを発見した。また、生体組織内での細胞動態イメージング技術を用いて、骨組織の生理的リモデリング機構とそのホルモン修飾及び関節リウマチにおける骨破壊という病態生理について破骨細胞と骨芽細胞の動態を解析することで明らかにした。他の研究者が手をつけていない領域で新しい研究手法を開拓し、その研究は新規性があり波及効果も大きい。骨代謝のメカニズムを明らかにすることとどまらず、研究対象は骨以外の組織の免疫・炎症に関連した分野にも広がりを見せ、今後の更なる発展が期待される。

3. 江橋賞の在り方について

江橋賞の授与は規定により1名の研究者に絞り込まざるを得ないが、IFやCI等の学術論文の指標では十分に評価できず、受賞者と優劣をつけがたい研究や製薬企業などで創薬に関係している研究者なども対象とする賞を創設し、江橋賞選考の一環で選考してはどうかとの意見が出された。本賞選考は、毎年候補者が少ない状況で推移しているが、新たな賞の創設による候補者の増加を期待し、理事会に賞の創設を提案することを決定した。

国際対応委員会報告

委員長：飯野 正光

委員：吉岡 充弘 (副委員長), 赤羽 悟美, 安西 尚彦, 池谷 裕二, 金井 好克, 廣瀬 謙造

顧問：三品 昌美

本年度は随時メールによる報告および審議を行った。

- 2018年7月4日開催の定時IUPHAR総会における日本代表团(10名)選出について、本会および日本臨床薬理学会からの選出比を7:3とすることとし、両学会理事長の了承を得て次の通り決定した(敬称略)。日本薬理学会選出：赤池 昭紀, 安西 尚彦, 金井 好克, 成宮 周, 廣瀬 謙造, 谷内 一彦, 吉岡 充弘。日本臨床薬理学会選出：内田 直樹, 熊谷 雄治, 渡邊 裕司。他に、三品 昌美 APFP 会長と、飯野 正光 IUPHAR Second Vice President は役職で投票権を有する。本総会における選挙で、第20回国際薬理学・臨床薬理学会議(2026年)開催地がメルボルン市(オーストラリア)に決定した。また2018-2022期の役員選出が行われ、金井 好克委員がSecond Vice Presidentに選出された。
- 第24期日本学術会議IUPHAR分科会の委員会構成が以下の通り2018年5月24日に決定された。飯野 正光(委員長), 吉岡 充弘(副委員長), 池谷 裕二(幹事), 上田 泰己(幹事), 今井 由美子, 今泉 祐治, 三品 昌美。今後、本委員会はIUPHAR分科会と協力しながらIUPHAR対応を進めていく。
- 第50回インド薬理学会年会(2018年2月15～17日, ムンバイ市)に委員長が参加し招待講演を行い交流を深めた。
- NC-IUPHAR委員会(2018年5月18日～20日, エディンバラ市)に金井 好克委員が参加し、薬物標的データベース更新について協議した。
- ASPETとの講師交換プログラムでは、Lorraine J. Gudas教授(Weill Cornell Medicine of Cornell University)を第92回年会(大阪市)に招聘することとなった。
- 韓国とのJoint Symposiumは、2012年以来中断しているが、第92回年会(大阪市)に合わせて開催することが日韓の代表者会議で同意された(2018年7月3日, 京都市)。

7. 日中薬理学・臨床薬理学シンポジウムが2019年に中国昆明市で開催されることが、日本薬理学会、日本臨床薬理学会、中国薬理学会のミーティングで決定された(2018年7月2日、京都市)。日本側窓口として安西 尚彦委員が選任された。日程が(往復の移動を含め)8月3日～6日に決まり、現在プログラムが検討されている。
8. APFP2020(2020年5月4日～7日)が台北市(台湾)で開催される。本委員会が理事長の要請を受けスピーカー候補の推薦を行った。現在、組織委員会がプログラムの編成を進めている。

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事：石毛久美子

1. 第92回年会におけるダイバーシティ企画シンポジウムについて
第92回年会会期中の2019年3月15日に、「イクボス」をキーワードにランチョンセミナーを開催する。本セミナーでは、各方面で活躍中の4名の方に、ボスとしての気遣いあるいはボスから受けた気遣いを交えてワークライフバランスについて紹介していただき、身近な方々の体験談から「イクボス」について考える機会とする。
2. 平成30年度の女性医師支援担当者連絡会について
平成30年12月9日(日)に日本医師会館で行われた「日本医師会女性医師支援センター・日本医学会連合共催 平成30年度女性医師支援担当者連絡会」に矢部 千尋先生とともに参加した。連絡会では、女性医師支援に対する各団体(学会：日本肝臓学会・日本皮膚科学会、大学：広島大学・聖マリアンナ医科大学、県医師会：青森県・新潟県・愛知県・滋賀県・島根県・長崎県)の取り組みが紹介され、活発な質疑応答があった。

【次世代の会活動報告】

代表：大久保 洋平(関東)

委員：北部会：小原祐太郎、野村 洋、矢吹 悌

関東部会：井手聡一郎、小菅 康弘、小山 隆太、宮川 和也、村田 幸久、藤田 智史

近畿部会：大垣 隆一、白川 久志、鈴木 良明、タムケオ ディーン、永井 拓、橋川 成美

西南部会：塩田 倫史、林 良憲、山下 智大、劉(島崎) 爽

2018年3月10日に委員会を開催し、随時メール会議を行った。

1. WCP2018 サテライト企画 “Young Pharmacologist Mixer”
各国の若手薬理学研究者の交流を目的として、合宿形式のサテライトシンポジウムを企画運営した。演題発表、懇親会、エクスカッションなどを通じて交流を深めることができ、参加者からも好評であった。
日 程：2018年7月6日(金)～7日(土)
会 場：関西セミナーハウス
参加者数：59名(男性：33名、女性：26名)
参加国数：17カ国
演 題 数：43題
2. WCP2018 次世代の会企画シンポジウム(1題)
“Mechanisms of white matter damage and repair: New therapeutic approaches for CNS diseases”
Organizer: Hisashi Shirakawa (Kyoto University), Ken Arai (Harvard Medical School / Massachusetts General Hospital)
3. 第92回年会次世代の会企画シンポジウム(2題)
「大脳皮質における感覚情報処理とその異常」
座長：藤田 智史(日本大学)、古田 貴寛(大阪大学)
「神経調節因子による脳機能の調節とその破綻」
座長：野村 洋(北海道大学)、永安 一樹(京都大学)
4. 「日本医学会連合 Rising Star リトリート」に日本薬理学会代表2名を派遣
塩田 倫史(熊本大学)、村田 幸久(東京大学)
5. 引き続き次世代の会ホームページ(<http://angesjps.umin.jp>)にて活動実績等を紹介している。
6. 研究推進委員会および企画教員委員会との連携のもと、2019年より「次世代薬理学セミナー」(旧称：新薬理学セミナー)を年2回開催し、その企画運営を担当することとなった。

X 新学術評議員一覽

平成31年度一覽 (73名)

氏名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
青野 悠里 AONO, Yuri	日本大学松戸歯学部 薬理学	〒271-8587 千葉県松戸市栄町西2-870-1	
青山 峰芳 AOYAMA, Mineyoshi	名古屋市立大学 大学院薬学研究科 病態解析学	〒467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3-1	052-836-3451
浅沼 大祐 ASANUMA, Daisuke	東京大学 大学院医学系研究科 細胞分子薬理学	〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3-1	03-5841-3414
天野 大樹 AMANO, Taiju	北海道大学 大学院薬学研究院 薬理学	〒060-0812 北海道札幌市北区北十二条西6丁目	011-706-3246
安藤 仁 ANDO, Hitoshi	金沢大学 医薬保健研究域 医学系 細胞分子機能学	〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1	076-265-2450
池田 哲朗 IKEDA, Tetsurou	高知大学 医学部 生理学(旧循環制御学)	〒783-0043 高知県南国市岡豊町小蓮	088-880-2587
石塚 洋一 ISHITSUKA, Yoichi	熊本大学 大学院生命科学研究部 (薬学教育) 薬剤情報分析学	〒862-0973 熊本市大江本町5-1	096-371-4559
石丸 侑希 ISHIMARU, Yuki	摂南大学 薬学部 薬物治療学	〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1	072-866-3132
伊藤 政明 ITO, Masaaki	高崎健康福祉大学 薬学部 薬効解析学	〒370-0033 群馬県高崎市中大類町60	
岩波 純 IWANAMI, Jun	愛媛大学 大学院医学系研究科 分子心血管生物・薬理学	〒791-0295 愛媛県東温市志津川454	089-960-5249
宇津 美秋 UZU MIAKI	(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所	〒305-8634 茨城県つくば市大わし1-2	029-838-7419
及川 弘崇 OIKAWA, Hirotaka	鈴鹿医療科学大学 薬学部 薬理動態学	〒513-0816 三重県鈴鹿市南玉垣町3500 - 3	059-340-0614
太田 有紀 OHTA, Yuki	聖マリアンナ医科大学 医学部 薬理学	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1	044-977-8111
大谷 直由 OTANI, Naoyuki	大分大学 医学部 臨床薬理学	〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1-1	097-586-5952
大西 克典 OHNISHI, Yoshinori	久留米大学 医学部 薬理学	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67	0942-31-7545
大橋 若奈 OHASHI, Wakana	富山大学 大学院医学薬学研究部 分子医科薬理学	〒930-0194 富山市杉谷2630	076-434-7262
大浜 剛 OHAMA, Takashi	山口大学 共同獣医学部 獣医薬理学	〒753-8515 山口市吉田1677-1	083-933-5906
岡田 宗善 OKADA, Muneyoshi	北里大学 獣医学部 獣医薬理学	〒034-8628 青森県十和田市東23番町35-1	0176-23-4371
奥田 傑 OKUDA, Suguru	大阪大学 大学院医学系研究科 生体システム薬理学	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3521
尾中 勇祐 ONAKA, Yusuke	摂南大学 薬学部 薬理学	〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1	072-866-3109
戒能 美枝 KAINOH, Mie	東レ(株) 医薬研究所	〒248-8555 神奈川県鎌倉市手広6-10-1	
垣野 明美 KAKINO, Akemi	信州大学 バイオメディカル研究所	〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1	0263-37-2595
片岡 智哉 KATAOKA, Tomoya	名古屋市立大学 大学院医学研究科 臨床薬剤学	〒467-8601 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1	052-853-8077
形山 和史 KATAYAMA, Kazufumi	塩野義製薬(株) 創薬疾患研究所 感染症・免疫部門	〒561-0825 大阪府豊中市二葉町3-1-1	06-6331-6829

氏名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
川畑 伊知郎 KAWAHATA, Ichiro	東北大学 大学院薬学研究科 薬理学	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	022-795-6838
川原 浩一 KAWAHARA, Kohichi	新潟薬科大学 薬学部 薬効薬理学	〒956-8603 新潟市秋葉区東島265-1	0250-25-5154
川村 将仁 KAWAMURA, Masahito	東京慈恵会医科大学 医学部 薬理学	〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8	
木村 元気 KIMURA, Genki	日本大学 薬学部 機能形態学	〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1	047-465-4789
倉内 祐樹 KURAUCHI, Yuki	熊本大学 大学院生命科学研究部 (薬学教育) 薬物活性学	〒862-9773 熊本市中央区大江本町5-1	096-371-4185
黒岩 真帆美 KUROIWA, Mahomi	久留米大学 医学部 薬理学	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67	0942-31-7545
齋藤 康太 SAITO, Kota	秋田大学 大学院医学系研究科 情報制御・実験治療学	〒010-8543 秋田市本道1-1-1	
佐々木 晶子 SASAKI, Akiko	昭和大学 医学部 薬理学 (医科薬理学部門)	〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8	03-3784-8125
佐藤 輝紀 SATO, Teruki	秋田大学 大学院医学系研究科 循環器内科学	〒010-8543 秋田市本道1-1-1	018-833-1166
篠田 康晴 SHINODA, Yasuharu	東北大学 大学院薬学研究科 薬理学	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	022-795-6837
瀬木(西田)恵里 SEGI-NISHIDA, Eri	東京理科大学 基礎工学部 生物工学科	〒125-8585 東京都葛飾区新宿6-3-1	03-5876-1463
武田 誠一 TAKEDA, Seiichi	扶桑薬品工業(株) 研究開発センター	〒536-8523 大阪市城東区森之宮2-3-30	06-696-3131
竹之内 康広 TAKENOUCHI, Yasuhiro	川崎医科大学 医学部 薬理学	〒701-0192 岡山県倉敷市松島577	086-462-1111
田中 徹也 TANAKA, Tetsuya	島根大学 医学部 薬理学	〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1	
棚橋 靖行 TANAHASHI, Yasuyuki	京都産業大学 総合生命科学部 動物生命医科・薬理学	〒603-8555 京都市北区上加茂本山	075-705-3079
戴 毅 DAI, Yi	兵庫医療大学 薬学部 薬物治療学	〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1-3-6	078-304-3147
塚原 完 TSUKAHARA, Tamotsu	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科 創薬薬理学	〒852-8521 長崎市文教町1-14	095-819-2473
出山 諭司 DEYAMA, Satoshi	金沢大学 医薬保健研究域 薬学系 薬理学	〒920-1192 石川県金沢市角間町	076-234-4473
中澤 敬信 NAKAZAWA, Takanobu	大阪大学 大学院歯学研究科 薬理学	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-8	06-6879-8182
中村 庸輝 NAKAMURA, Yoki	広島大学 大学院医系科学研究科 薬効解析科学	〒734-8553 広島市南区霞1-2-3	082-257-5312
長沼 史登 NAGANUMA, Fumito	東北医科薬科大学 医学部 薬理学	〒983-8536 宮城県仙台市宮城野区福室1-15-1	022-290-8722
永安 一樹 NAGAYASU, Kazuki	京都大学 大学院薬学研究科 生体機能解析学	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46-29	075-753-4548
西川 恵三 NISHIKAWA, Keizo	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 免疫細胞生物学	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3881
西村 周泰 NISHIMURA, Kaneyasu	京都薬科大学 薬学部 (本校舎)	〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5	075-595-4649
西本 裕樹 NISHIMOTO, Yuki	日本大学 薬学部 機能形態学	〒274-8555 千葉県船橋市習志野台7-7-1	047-465-5826

氏名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
野村 洋 NOMURA, Hiroshi	北海道大学 大学院薬学研究院 薬理学	〒060-0812 北海道札幌市北区北十二条西6丁目	0117063248
畑井 麻友子 HATAI, Mayuko	武庫川女子大学 薬学部 薬理学 I	〒663-8179 兵庫県西宮市甲子園九番町11-68	0798-45-9945
林 崇 HAYASHI, Takashi	(独)国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 病態生化学研究部	〒187-8502 東京都小平市小川東町4-1-1	042-346-1722
原(野上) 愛 NOGAMI-HARA, AI	就実大学 薬学部 応用薬学・薬効解析学	〒703-8516 岡山市中区西川原1-6-1	086-271-8425
原 雄大 HARA, Yuta	近畿大学 薬学部 細胞生物学	〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1	06-4307-3636
原田 龍一 HARADA, Ryuichi	東北大学 大学院医学系研究科 機能薬理学	〒980-8575 宮城県仙台市青葉区 星陵町2-1	022-717-8057
肱岡 雅宣 HIJIOKA, Masanori	立命館大学 薬学部 薬効解析学	〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1	077-561-4818
平山 友里 HIRAYAMA, Yuri	千葉大学医学部附属病院 薬剤部	〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-222-7171
黄 洋一 FAN, Yan-il	昭和大学 薬学部 薬理学	〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8	
麓 加菜 FUMOTO, Kana	武庫川女子大学 薬学部 薬理学 II	〒663-8179 兵庫県西宮市甲子園九番町11-68	0798-45-9944
外村 和也 HOKAMURA, Kazuya	浜松医科大学 医学部 薬理学区	〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1	
細川 雅人 HOSOKAWA, Masato	東京都医学総合研究所 認知症プロジェクト	〒156-8506 東京都世田谷区上北沢2-1-6-207	03-6834-2323
増川 太輝 MASUKAWA, Daiki	横浜市立大学 医学部 分子薬理神経生物学	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2595
松永 慎司 MATSUNAGA, Shinji	大阪市立大学 大学院医学研究科 分子病態薬理学	〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3	06-6645-3731
三明 淳一郎 MIAKE, Junichiro	鳥取大学 医学部 薬理学・薬物療法学	〒683-8503 鳥取県米子市西町86	0859-38-6163
道永 昌太郎 MICHINAGA, Shotaro	大阪大谷大学 薬学部 薬理学	〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3-11-1	0721-24-9464
室井 喜景 MUROI, Yoshikage	帯広畜産大学 獣医学研究部門 獣医薬理学	〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2-11	0155-49-5365
毛利 彰宏 MOURI, Akihiro	藤田医科大学 医療科学部 レギュラトリーサイエンス	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98	
森田 茜 MORITA, Akane	北里大学 薬学部 分子薬理学	〒108-8641 東京都港区白金5-9-1	03-3444-6205
矢吹 梯 YABUKI, Yasushi	東北大学 大学院薬学研究科 薬理学	〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	022-795-6837
山崎 由衣 YAMAZAKI, Yui	近畿大学 医学部 薬理学	〒589-8511 大阪狭山市大野東 377-2	072-366-0221
山下 直也 YAMASHITA, Naoya	順天堂大学 医学部 薬理学	〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1	03-5802-1035
山本 由似 YAMAMOTO, Yui	東北医科薬科大学 医学部 解剖学	〒983-8536 宮城県仙台市宮城野区福室1-15-1	022-290-8718
吉澤 一巳 YOSHIZAWA, Kazumi	東京理科大学 薬学部 疾患薬理学	〒278-8510 千葉県野田市山崎2641	04-7121-3651